

2022/09/20（火）

朝の礼拝

聖書 ルカによる福音書 10章 33-35節（新約聖書127頁）

ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見て憐れに思い、近寄って傷に油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分のろばに乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。そして、翌日になると、デナリオン銀貨二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『この人を介抱してください。費用がもっとかかったら、帰りがけに払います。』

あたりまえ

今年の夏、『ユダヤ人を命がけで救った人びと』という本を読みました。ナチスドイツに追われたユダヤ人を危険だとわかっていながら、まして自分の死の危険もかえりみずに家にかくまい、安全な国へ脱出できるようにして救った人たちです。

オランダ、デンマーク、フランス、そしてドイツ人の中にもユダヤ人を命がけで救った人たちがいました。救った内容も方法も様々です。しかし共通していたのは彼らが普通の人で、異口同音に「あたりまえのことをしただけ」と言っていることです。

追いはぎに襲われた人を助けたサマリア人も「あたりまえのことをしただけ」としか思っていなかったではないでしょうか。旅の途中で困っている人がいれば助けるのはあたりまえだと思っていたのではないのでしょうか。

私たちはサマリア人のような、ユダヤ人を命がけで救った人びとのようなことはできないと考えます。しかし、もし目の前で向き合ったらどうでしょうか。ひょっとしたら何も考えずにあたりまえのこととして行動するかもしれないのです。それが愛です。

(しばらく黙祷しましょう)

英和女学院を祝福し、学ぶものを愛し育まれる主よ、感染症や病にある人びと、台風によって困難な生活にある人びとのために祈ります。今週も互いに励まし、助け合い成長させてください。今日一日もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン